Platio

アプリ
操作ガイド

V 3.0.0

©Asteria Corporation

目次

1. Platioとは	5
1-1. Platioアプリの利用イメージ	6
1-1-1. Platioの画面イメージ	6
1-1-2. Platioアプリを使い始める	7
1-2. Platioアプリをインストール	8
2. アプリへログイン	9
2-1. ログイン画面を表示する方法	9
2-1-1. QRコードをスキャン	9
2-1-2. 招待メールのリンクをタップ	10
2-1-3. ミニアプリURLを入力	10
2-2. ミニアプリのログイン画面	11
3. シーン	12
3-1. シーンとは	12
3-1-1. 新規シーン	13
レコード作成後の動作	13
3-1-2. 一覧シーン	14
3-1-3. 地図シーン	14
3-1-4. グラフシーン	15
3-1-5. バーコードシーン	15
3-1-6. 表示シーン	16
3-1-7. 編集シーン	17
レコード編集後の動作	17
4. Platioアプリの基本操作	18
4-1. 画面をスクロールする	18
4-2. 前の画面に戻る	19
4-3. データポケット一覧を表示	20
4-4. 別のデータポケットを表示	20
4-5. 地図の拡大縮小	21
4-6. グラフの表示範囲を拡大縮小	22
4-7. 操作時の共通アイコン	23
5. データを入力する	26
5-1. データ入力できるシーン	26
5-1-1. 新規シーンと編集シーンの共通アイコン	26
5-2. フィールドアイコン一覧	28

目次

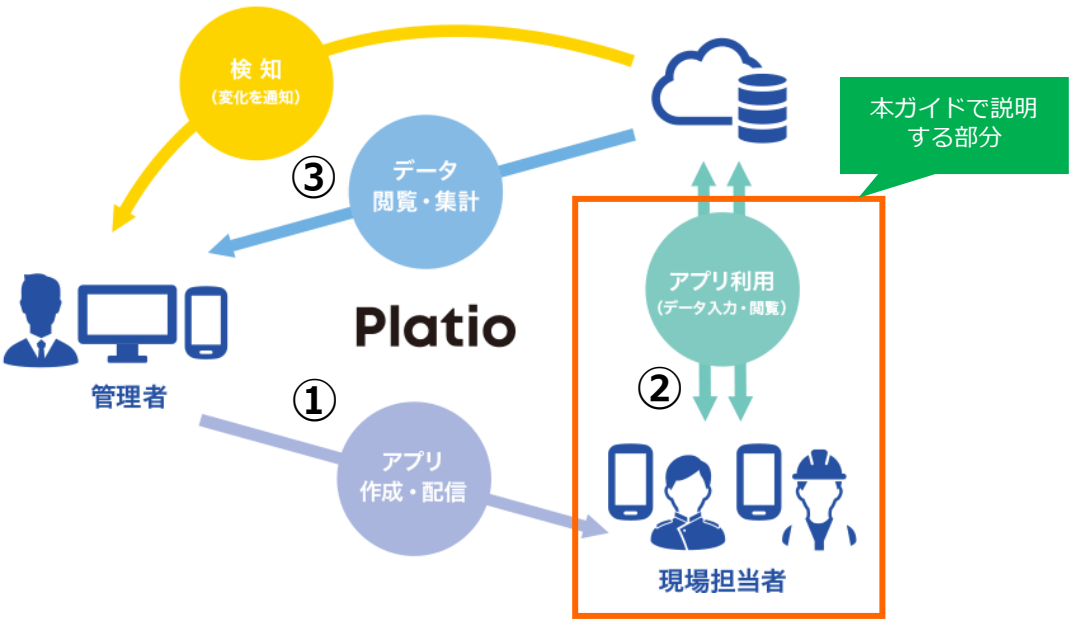
5-3. フィールドにデータを入力する方法	32
5-3-1. テキストタイプ	32
5-3-2. 数値タイプ	32
5-3-3. 日時タイプ	32
5-3-4. 日付タイプ	33
5-3-5. 時間タイプ	33
5-3-6. 選択タイプ	34
5-3-7. 地図タイプ	35
5-3-8. メディアタイプ	35
5-3-9. リーダータイプ	37
5-3-10. レコード選択タイプ	37
5-3-11. 計算/集計/自動化タイプ	38
5-3-12. センサータイプ（BLE機器）	38
5-4. レコードを保存する	39
5-4-1. 保存する時の必須エラー	39
5-4-2. 保存する時の同期エラー	39
5-4-3. 保存する時の重複エラー	40
レコードを削除	40
レコードを編集して保存	40
5-4-4. レコードの衝突エラー	41
5-5. レコードを編集する	42
5-6. レコード作成/編集の取り消し	43
6. データを閲覧する	44
6-1. データを一覧で表示できるシーン	44
6-2. レコードの詳細を閲覧する	44
6-2-1. 一覧シーンからレコードの詳細を確認する	44
6-2-2. 地図シーンからレコードの詳細を確認する	45
6-2-3. グラフシーンからレコードの詳細を確認する	46
6-3. レコード一覧でキーワードを検索する	47
6-3-1. 一覧、地図、グラフシーンでの検索	47
6-3-2. アプリの検索条件	48

目次

6-3-3. 検索書式	50
比較演算子を使用する検索書式	50
使える比較演算子	50
検索時のフィールド型	51
6-3-4. 定義済み検索条件	52
6-4. バーコードシーンでレコードを検索する	53
6-5. レコード一覧でレコードを並び替える（ソート）	54
6-6. レコードの印刷	55
7. その他の操作	56
7-1. データポケットの切替	56
7-2. レコードの削除	57
7-2-1. 一覧シーンでレコードを削除する	57
7-2-2. 地図シーンでレコードを削除する	58
7-3. ミニアプリの更新	59
7-4. ミニアプリの設定画面	60
7-4-1. 設定画面に切り替える	60
7-4-2. パスワードを変更する	61
7-4-3. データを手動で同期する	62
7-4-4. 設定画面からデータポケット一覧に戻る	63
7-5. ミニアプリからログアウト	64
7-6. Platioアプリの終了	65
7-7. プッシュ通知	66
7-8. トラブルシューティング	67
7-8-1. ログを取得する(iOS / iPadOS)	67
7-8-2.端末からアプリのレポートを送信する	68

1 Platioとは

Platioを利用するには3つのステップがあります。このガイドは**ステップ②** 使う で利用するPlatioアプリの操作を説明します。



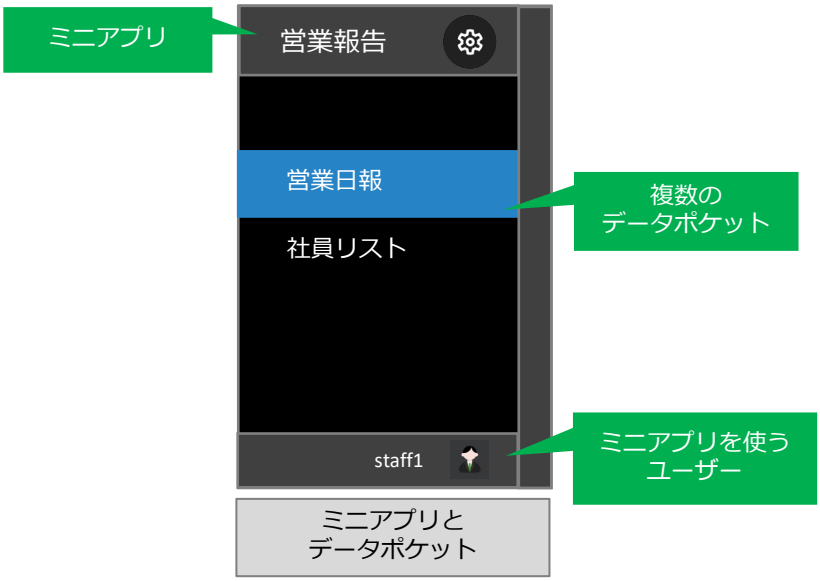
補足

本ガイドは、iOS/iPadOSを主に説明しており、Androidでは一部できない操作や機能があります。
製品仕様については、下記の仕様一覧のPlatioアプリを参照してください。
【仕様一覧】
https://plat.io/ja/spec

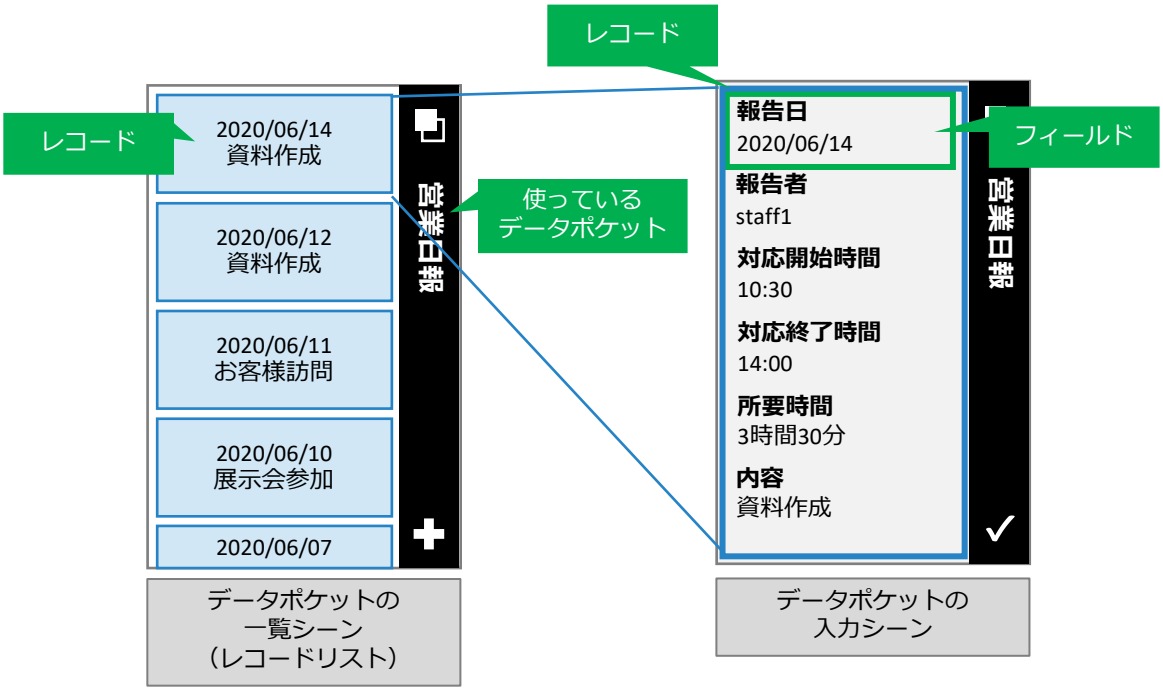
1-1. Platioアプリの利用イメージ

1-1-1. Platioの画面イメージ

Platioアプリは、現場業務に合わせたミニアプリでデータを管理します。ミニアプリでは、複数の異なるデータ（レコード）を管理することができ、データを入力・表示する部分をデータポケットと呼びます。ミニアプリに複数のデータポケットを含めることができます。



データポケットに登録するデータのまとまりをレコードと呼びます。
レコードのデータを入れる部分をフィールドと呼び、日時/テキスト/写真/選択リストなどのさまざまな形式で入力・編集できます。



用語 Tips

Platioアプリ：スマートフォン/iPad端末でPlatioサービスを利用できるアプリです。
アプリストアから無料でダウンロードできます。
ミニアプリ：　複数の異なるデータを管理します。
データポケット：ミニアプリの業務に合わせたデータを入力・表示します。

1-1-2. Platioアプリを使い始める

Platioアプリを使い始める時はミニアプリにログインします。

※ 初期シーンはアプリ管理者が指定しています。

アプリの管理者の方針によって、大きな業務や部署ごとに複数のミニアプリを使うことがあります。
その場合、使っていたミニアプリから、別のミニアプリへ切り替えてログインして利用します。

※ 新しくミニアプリへログインする場合は追加アイコンをタップして起動画面からログインします。

1-2. Platioアプリをインストール

まずはスマートフォン/iPad端末にPlatioアプリをインストールしましょう。
対応端末、対応OSバージョンについてはPlatio製品サイトの「仕様一覧」を参照してください。

端末でアプリストアをタップします。
アプリストアで「Platio」を検索し、Platioアプリをインストールしてください。

2 アプリへログイン

2-1. ログイン画面を表示する方法

アプリの管理者からログイン画面表示する方法が伝達されます。

ミニアプリを使い始めるとき、ログイン画面を表示する方法は以下の3つがあります。

- QRコードをスキャン
- 招待メールのリンクをタップ
- ミニアプリURLを入力する

アプリ管理者から伝達された方法でログインしてください。

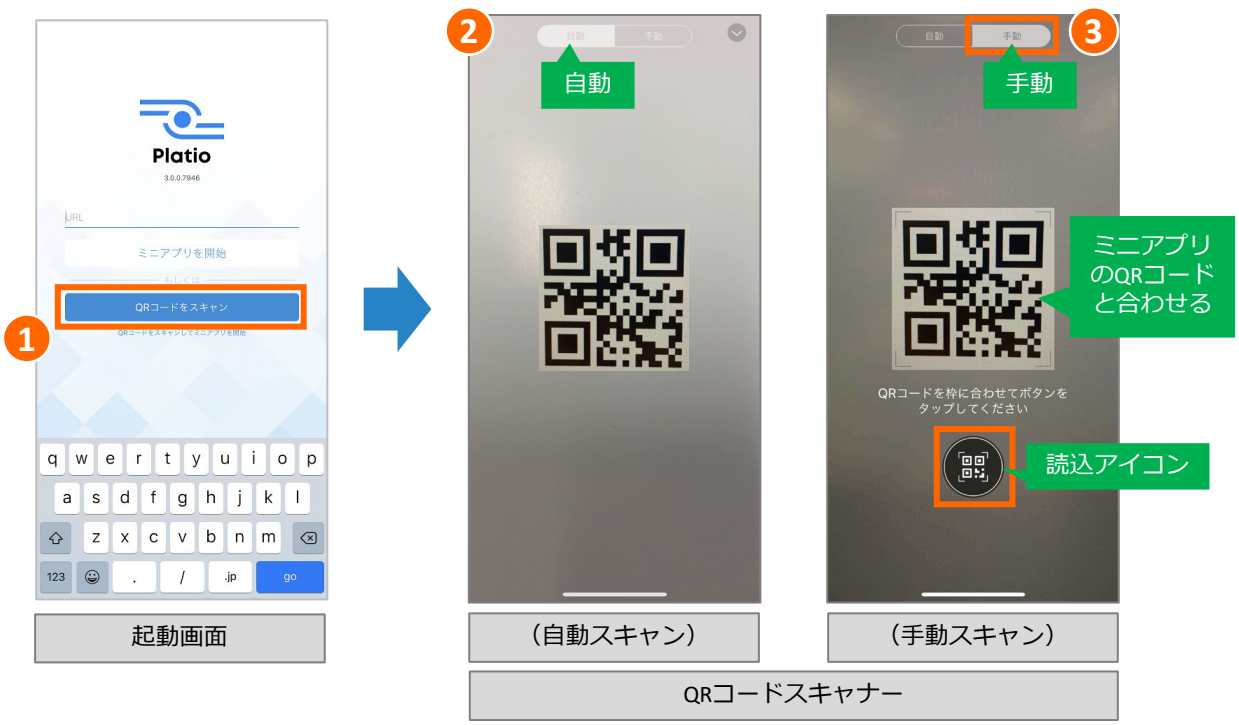
2-1-1. QRコードをスキャン

1. Platioアプリをタップした後の起動画面で「QRコードをスキャン」をタップします。

2. QRコードスキャナー（自動スキャン）画面が表示されます。
ミニアプリのQRコードをスキャンして、ログイン画面を表示します。

3. 手動でQRコードをスキャンしたい場合、QRスキャナー画面の上部にある「手動」をタップし、QRコードスキャナー（手動スキャン）画面に切り替えます。

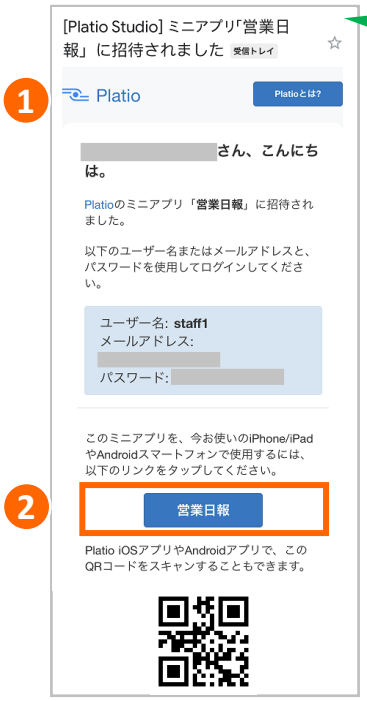
ミニアプリのQRコードを画面の真ん中にある四角いリーダーと合わせると、読込アイコンが有効になります。読込アイコンをタップして、ログイン画面を表示します。



2-1-2. 招待メールのリンクをタップ

1. Platioから招待メールが届いた場合、端末のメールアプリを立ち上げて、招待メールを開きます。

2. メールにミニアプリを直接開くリンクが掲載されています。
ミニアプリ名のリンクをタップして、ログイン画面を表示します。



Tips

招待メールの件名は以下となります：

「[Platio Studio]ミニアプリ「○○」に招待されました」

2-1-3. ミニアプリURLを入力

1. ミニアプリごとにユニークURLが発行されます。
Platioの起動画面にあるURL枠とタップして、ミニアプリURLを入力または張り付けます。

2. 「ミニアプリを開始」をタップして、ログイン画面を表示します。

Tips

ミニアプリURLの構成は以下となります：

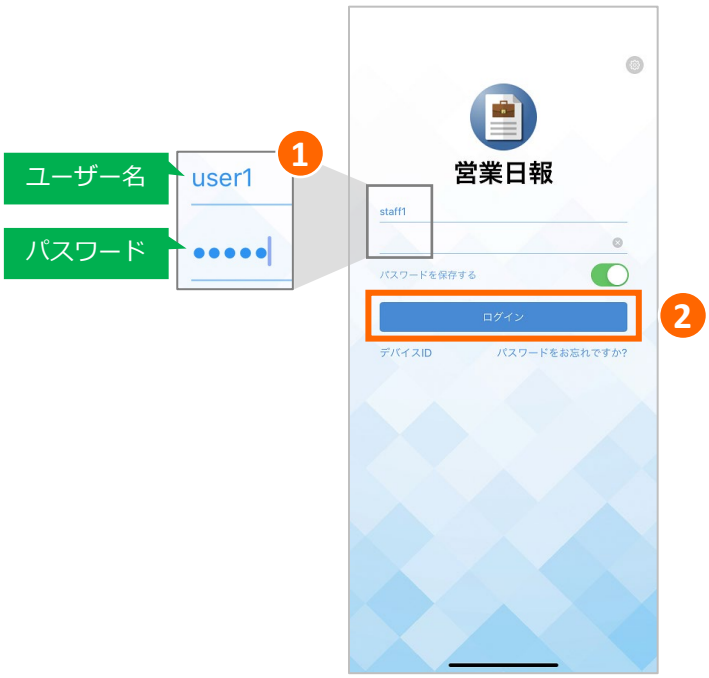
https://app.plat.io/app/組織名/ミニアプリ名

2-2. ミニアプリのログイン画面

ユーザーのログイン情報は、アプリ管理者からの伝達または招待メールの内容で確認します。

1. ミニアプリのログイン画面に配布されたユーザー名及びパスワードを入力します。

2. 「ログイン」をタップして、ミニアプリにログインします。
ミニアプリの初期シーンが表示されます。



3 シーン

3-1. シーンとは

Platioアプリの操作によって切り替える各画面を「シーン」と呼びます。
以下はPlatioアプリ内すべてのシーンです。

シーン	説明	初期シーンになっている場合
新規シーン	レコードを作成する画面	○ データポケットのタイプがレコード作成の場合
一覧シーン	レコードをリストで一覧表示する画面	○ データポケットのタイプがレコード管理の場合
地図シーン	レコードの位置データを地図上で一覧表示する画面	
グラフシーン	レコードの数値データをグラフにプロットし、一覧で表示する画面	
バーコードシーン	バーコードやQRコードをスキャンして、紐づけたフィールドのデータをレコード一覧から検索し表示する画面	
表示シーン	レコードを閲覧する画面	×
編集シーン	レコードを編集する画面	×

用語 Tips

フィールド：Platioアプリで入力する各項目です。
レコード：フィールドに入力して、保存されたデータのまとまりです。
初期シーン：ミニアプリにログイン後、最初表示する画面のことです。

Tips

データポケットのタイプと初期シーン

データポケットのタイプは2種類（**レコード管理**と**レコード作成**）が存在します。タイプによって、ミニアプリにログイン後の初期シーンが異なります。

データポケットのタイプがレコード管理の場合、ログイン後の初期シーンはレコードを一覧で表示する画面になります。データポケットのタイプがレコード作成の場合、ログイン後の初期シーンはレコードを作成できる画面になります。

※ 設定によって、データポケットのタイプに関わらず、レコードの作成・表示・編集・一覧シーンがすべて存在する場合があります。

3-1-1. 新規シーン

新しいレコードを作成する画面です。
フィールドにデータを入力して、保存すると、新しいレコード（データのまとまり）が作成されます。
新規シーンではフィールド入力、写真撮影、ビデオ撮影3種類があります。

新規シーン
（フィールド入力）

新規シーン
（写真撮影）

新規シーン
（ビデオ撮影）

Tips

Platioアプリで写真を撮影するにはPlatioアプリのカメラアクセス許可が必要です。
ビデオを撮影するにはPlatioアプリのカメラ及びマイクアクセス許可が必要です。

カメラとマイクのアクセスを許可する方法：
スマートフォン/iPad端末のホーム画面で「設定」アプリをタップします。アプリ一覧から「Platio」をタップし、アプリ設定のカメラ及びマイクのオプションをオンに変更します。

レコード作成後の動作

新規シーンでデータを保存した後の動作が3種類あります。

- **戻る**
  レコードを保存した後、初期シーンが一覧シーンの場合、一覧シーンに戻ります。初期シーンが新規シーンの場合、新規シーンに戻ります。
- **表示**
  レコードを保存した後、レコードの表示シーンが表示されます。
- **編集**
  レコードを保存した後、レコードの編集シーンが表示されます。

3-1-2. 一覧シーン

保存されたレコードをリストで一覧表示する画面です。

一覧シーン　　表示シーン

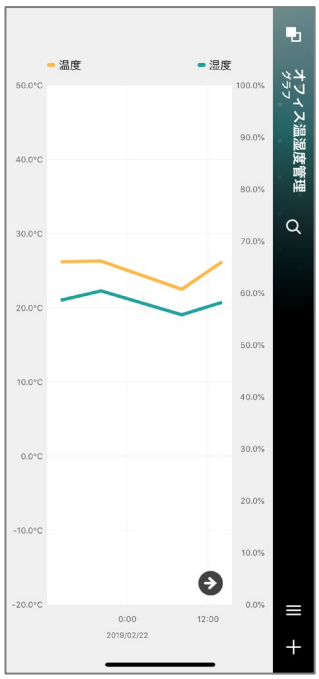
3-1-3. 地図シーン

レコードの位置データを地図上で一覧表示する画面です。

地図シーン

3-1-4. グラフシーン

レコードの数値データをグラフにプロットし、一覧で表示する画面です。



グラフシーン

3-1-5. バーコードシーン

バーコードやQRコードをスキャンして、紐づけたフィールドに登録しているデータをレコード一覧で検索する画面です。

バーコードシーン
（読み取り画面）

3-1-6. 表示シーン

レコードを閲覧する画面です。

タイトル
A社様内扉修理、施工状況

タップしても編集ができません

複製アイコン
タップすると、レコードが複製されて新規シーンに切り替わります

※ アプリの管理者が複製を許可していない場合、複製アイコンは表示されません。

編集アイコン
タップすると、編集シーンに切り替わります

※ 編集シーンがない場合、編集アイコンは表示されません。

3-1-7. 編集シーン

レコードを編集する画面です。

※ アプリの管理者によって、フィールドの編集が可・不可、表示・非表示になっている可能性があります。

レコード編集後の動作

データを編集、保存した後の動作が2種類あります。

- **戻る**
  レコードを保存した後、前の画面（レコード一覧シーン）に戻ります。
- **表示**
  レコードを保存した後、レコードの表示シーンが表示されます。

4 Platioアプリの基本操作

4-1. 画面をスクロールする

上にスワイプする操作：フィールド数やレコード数が多い場合、下から上にスワイプすると、他のフィールドやレコードを表示することができます。

Tips

スワイプの操作は端末に指を画面タッチしたまま、移動することです。

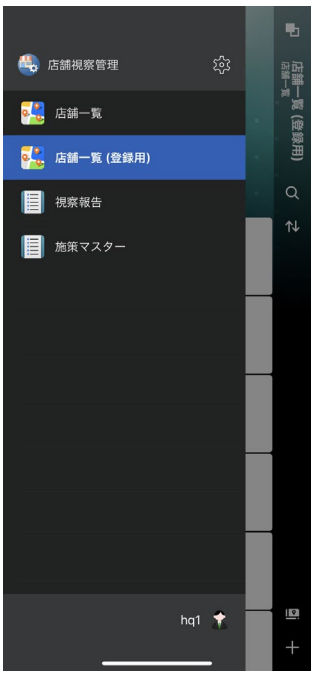
4-2. 前の画面に戻る

初期シーン以外の画面で上部から下方向にスワイプすると、前の画面に戻ることができます。

4-3. データポケット一覧を表示

初期シーンで右上部の切替アイコンをタップすると、データポケット一覧画面が表示されます。

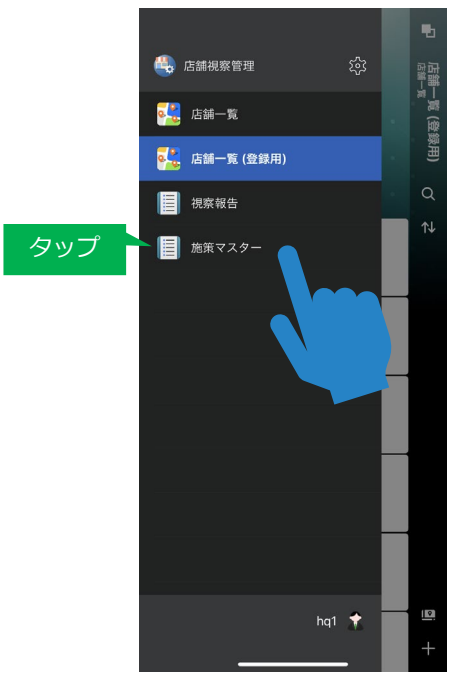
一覧シーン（初期シーン）



データポケット一覧

4-4. 別のデータポケットを表示

データポケット一覧のデータポケット名をタップするとデータポケットの切替ができます。

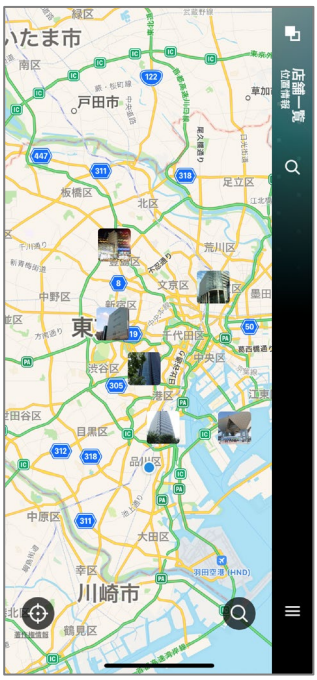


データポケット一覧

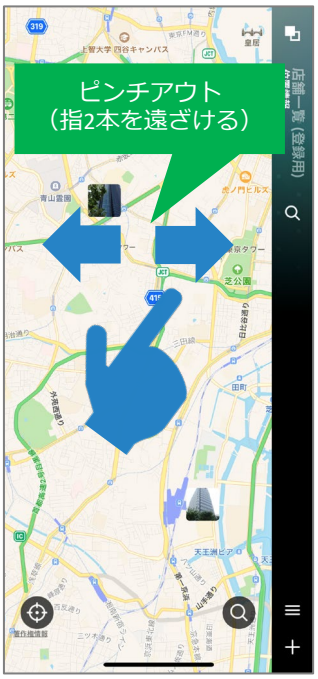
4-5. 地図の拡大縮小

地図をピンチアウト（指2本を遠ざける方向へ移動）すると、地図を拡大することができ、レコードの位置を正確に確認することができます。

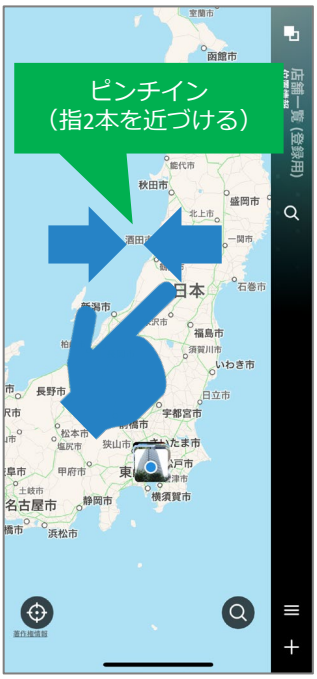
地図をピンイン（指2本を近づける方法へ移動）すると、地図を縮小することができ、全国にレコードがあるかどうかを確認することができます。



地図シーン
（デフォルトズーム）



地図シーン
（拡大 / ズームイン）



地図シーン
（縮小 / ズームアウト）

※ 設定によって、デフォルトのズームレベルは異なります。

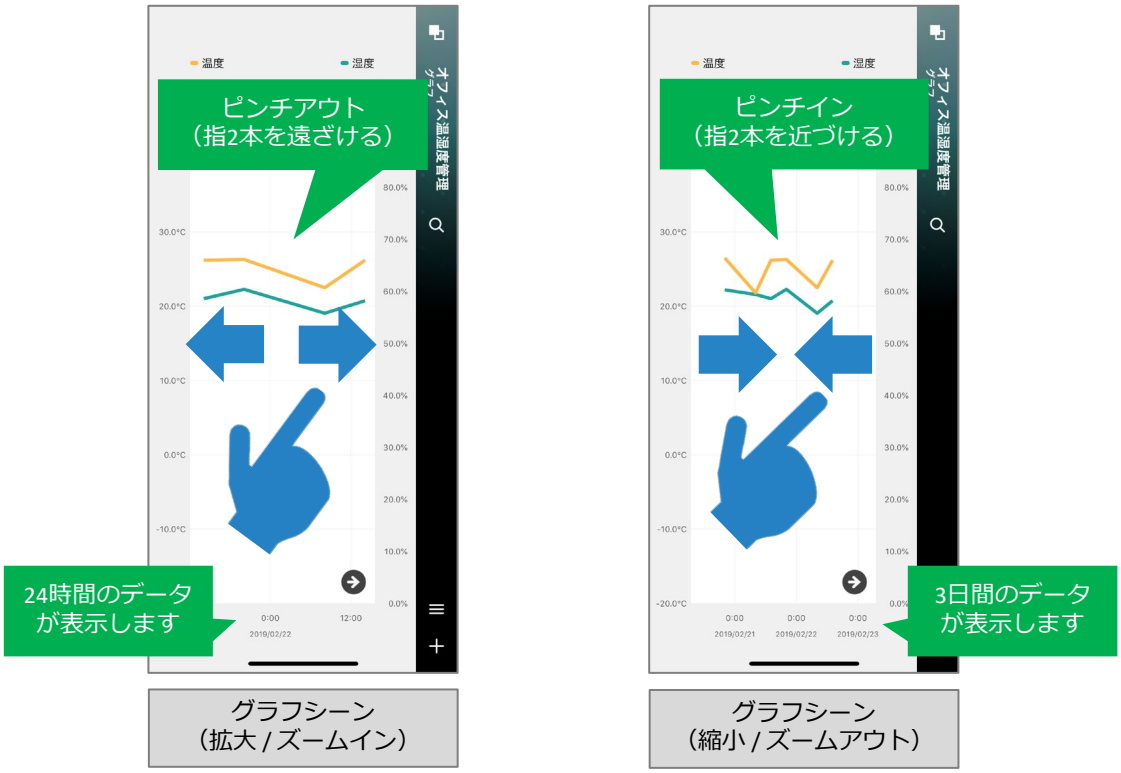
Tips

ピンチイン・ピンチアウトの操作は端末に指2本を画面タッチしたまま、近づける方法・遠ざける方向へ移動することです。

4-6. グラフの表示範囲を拡大縮小

グラフをピンチアウト（指2本を遠ざける方向へ移動）すると、グラフを拡大することができ、表示するデータの時間範囲は短くなります。

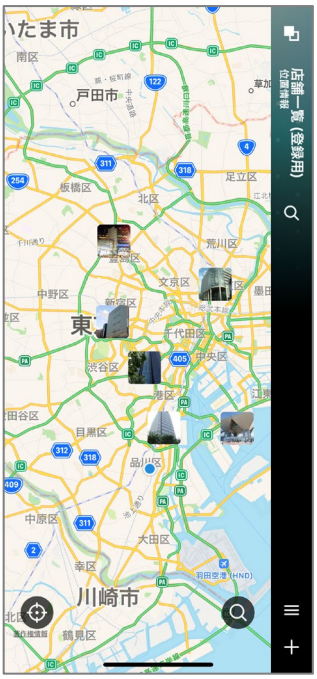
グラフをピンイン（指2本を近づける方法へ移動）すると、グラフを縮小することができ、表示するデータの時間範囲は長くなります。



※ 設定によって、初期範囲の拡大できる最小範囲、縮小できる最大範囲は異なります。

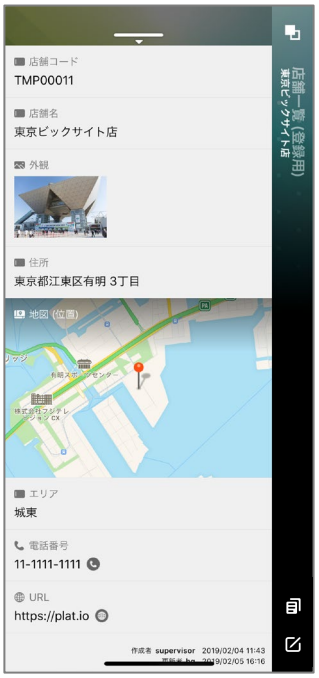
4-7. 操作時の共通アイコン

シーンの設定、データの操作（入力・閲覧）によって、同じシーンでも表示しているアイコンが異なります。



レコードを一覧で表示、検索できる画面

- 一覧シーン
- 地図シーン
- グラフシーン
- バーコードシーン



レコードのデータを閲覧する画面

- 表示シーン

レコードのデータを入力できる画面

- 新規シーン
- 編集シーン

アイコン			表示するシーン
	データポケット一覧	ミニアプリ内のデータポケットを一覧で表示します	すべてのシーン
	一覧シーン切替	レコードをリストの形で一覧表示します	新規シーン 地図シーン、 グラフシーン、 バーコードシーン
	レコード追加	新規のレコードを作成します	一覧シーン、 地図シーン、 グラフシーン、 バーコードシーン
	検索	レコード一覧で検索可能なフィールドに登録しているデータを検索します	一覧シーン、 地図シーン、 グラフシーン
	ソート	レコード一覧でソート可能なフィールドで並べ替えます	一覧シーン
	編集	レコードのデータを編集します	表示シーン
	保存	レコードのデータを保存します	新規シーン、 編集シーン
	複製	レコードを複製します	表示シーン

操作時の共通アイコン（続く）

アイコン			表示するシーン
	印刷	レコードのデータを印刷します	表示シーン
	現在位置	端末の現在位置(GPSデータ)を画面の中央に表示します（表示しているズームレベルは変更しません）	地図シーン
	場所検索（地図内）	場所のキーワードを検索して画面の中央に表示します	
	現在時刻	現在時刻のデータを右端で表示します（表示しているズームレベルは変更しません）	グラフシーン
	現在時刻（オートスクロール）	現在時刻を常に右端で表示します（時間が進むと、グラフで表示している日時も自動的に左の方向へ移動します）	
	地図シーン切替	レコードの位置データを地図上で一覧表示します	一覧シーン、 グラフシーン、 バーコードシーン
	グラフシーン切替	レコードの数値データをグラフにプロットし、一覧で表示します	一覧シーン、 地図シーン、 バーコードシーン
	バーコードシーン切替	バーコードやQRコードをスキャンして、紐づけたフィールドに登録しているデータを検索します	一覧シーン、 地図シーン グラフシーン
	前の画面	（画面上端の中央） 前の画面に戻ります	初期シーン、設定画面**以外**の画面
	検索をキャンセル	（検索アイコンをタップした後） 検索中のキーワードを取り消します	一覧シーン、 地図シーン、 グラフシーン
	削除	（一覧シーンでレコードを左へスワイプ、もしくは地図シーンでレコードを長押し） レコードを削除します	一覧シーン、 地図シーン
	未同期	（一覧シーンのレコード、表示シーン上部） 登録、更新したレコードのデータはPlatioサーバーにまだ保存されていないことを示します。 ※ アプリ上のデータはサーバーと同期されていない状態で、入力したデータはデータビューアーに反映、保存されていません	一覧シーン、 表示シーン
	衝突	（一覧シーンのレコード、表示シーン上部） 更新したレコードのデータはPlatioサーバー上に保存されているデータと異なることを示します。 ※ アプリ上のデータはサーバーと同期されていない状態で、入力したデータはデータビューアーに反映、保存されていません	
	注意	（**一覧シーンのレコード、表示シーン上部**） 登録したレコードのデータは登録済みのレコードデータと重複していることを示します。 ※ アプリ上のデータはサーバーと同期されていない状態で、入力したデータはデータビューアーに反映、保存されていません	

操作時の共通アイコン（続く）

アイコン			表示するシーン
	更新マーク	（**ログイン中のミニアプリが更新された場合**） 設定画面の更新でミニアプリを更新します	すべてのシーンの切替アイコン、データポケット一覧の設定アイコン
	保存 （手書き、署名画面）	（手書き、もしくは署名画面） 手書き、署名を保存、破棄します	手書き画面、署名画面
	削除 （手書き、署名画面）	（手書き、もしくは署名画面） 手書き、署名を削除します	手書き画面、署名画面
	元に戻す	（手書き画面） 手書きを元に戻す	手書き画面
	やり直し	（手書き画面） 手書きをやり直す	手書き画面
	ペン	（手書き画面） 指で画面に手書きします（無効になっている場合、アイコンは薄く表示されます）	手書き画面
	消しゴム	（手書き画面） 手書きを指で消します（無効になっている場合、アイコンは薄く表示されます）	手書き画面
	設定画面	（**データポケット一覧の右上にあるアイコン**） 設定画面を表示します	データポケット一覧
	ミニアプリ更新	（ミニアプリメニューをタップした後） ミニアプリの最新バージョンを読み取って、更新します	設定画面
	戻る	（各画面の左上にあるアイコン） 前画面に戻ります	設定画面、パスワード変更、ライセンス
	起動画面	（ログイン画面の右上にあるアイコン） 起動画面に戻ります	ミニアプリのログイン画面

5 データを入力する

5-1. データ入力できるシーン

データを入力する操作手順は2つあります：

- 新規シーンで新しいレコードを作成する
- 編集シーンでレコードのデータを編集する

上記の各シーンでフィールドをタップすると、フィールドにデータが入力できます。
データを入力して保存すると、データがPlatioサーバーに保存されます。

5-1-1. 新規シーンと編集シーンの共通アイコン

以下は新規シーンと編集シーンでデータを入力・編集する時の画面です。

※ アプリの管理者が書いたフィールドの説明が表示されます。

	フィールドアイコン フィールド型を一目でわかるためのアイコンです。 例）フィールドが日時型の場合、カレンダーと時計のアイコンが表示されます。
	必須アイコン データ入力が必須の場合、アイコンが表示されます。 フィールドにデータが入力しない場合、レコードを保存することは出来ません。
	編集アイコン フィールドのデータが編集できる場合、アイコンが表示されます。 編集アイコンが表示されない場合、データの編集はできません。

5-1-1. 新規シーンと編集シーンの共通アイコン（つづき）

✓	**保存アイコン** タップして入力、編集したデータをPlatioクラウドに保存します。

5-2. フィールドアイコン一覧

フィールド型を一目でわかるように各フィールドにアイコンが表示されます。
以下はフィールドアイコンの一覧です。

アイコン			タイプ
	テキスト	テキストを入力・表示します	テキスト
	複数行テキスト	複数行テキストを入力・表示します	
	電話番号	電話番号を入力・表示します	
	メールアドレス	メールアドレスを入力・表示します。 「@xx.com」までの入力が必要です。	
	URL	URLを入力・表示します。 「http://」、「https://」の入力は必要です。	
	パスワード	パスワードを入力・表示します。 １行のテキスト。アプリ上では入力した文字列が暗号化されて表示します。データビューアー上では文字列は暗号化しない状態で表示します。	
	数値	数値を入力・表示します	数値
	通貨	金額を入力・表示します	
	日時	日時を入力・表示します	日時
	日付	日付を入力・表示します	日付
	時間	時間を入力・表示します	時間
	期間	期間を入力・表示します	数値
	スイッチ	オン・オフを入力・表示します	選択
	テキスト選択	リストからテキストを選択します	
	複数テキスト選択	リストからテキストを複数選択します	
	数値選択	リストから数値を選択します	
	複数数値選択	リストから数値を複数選択します	
	スライダー	スライダーを使用して数値を選択します	
	ユーザー	ユーザーを選択します	
	複数ユーザー	複数のユーザーを選択します	
	色選択	リストから色を選択します	

フィールドアイコン一覧（続く）

アイコン			タイプ
	地図(位置)	地図上で位置情報を入力・表示します	地図
	画像(小) / (大)	写真を撮影・表示します	メディア
	手書き画像	手書きで画像を作成します	
	ビデオ	ビデオを録画・再生します	
	音声	音声を録音・再生します	
	ファイル	ファイルを閲覧します	
	署名	手書きで署名します	
	バーコード	バーコードを読み取ります	リーダー
	QRコード	QRコードを読み取ります	
	NFC	NFCタグを読み取ります	
	テキスト読み取り	英文字からなる短いテキストを読み取ります	
	数値読み取り	数値を読み取ります	
	レコード選択	他のデータポケットのレコードを選択します	レコード選択
	子レコード	このデータポケットのレコードを選択しているレコードを閲覧・編集します	
	テキスト生成	他のフィールドの値からテキストを生成します	計算 （計算で利用するフィールドのデータを編集すると値が計算フィールドに反映されます。データを直接編集することはできません。）
	URL生成	他のフィールドの値からURLを生成します	
	数値計算	他のフィールドの値から数値を計算します	
	通貨計算	他のフィールドの値から金額を計算します	
	スイッチ計算	他のフィールドの値からオン・オフ値を計算します	
	日時計算	他のフィールドの値から日時を計算します	
	日付計算	他のフィールドの値から日付を計算します	
	時間計算	他のフィールドの値から時間を計算します	
	期間計算	他のフィールドの値から期間を計算します	
	位置計算	他のフィールドの値から位置を計算します	

フィールドアイコン一覧（続く）

アイコン			タイプ
	集計	別のミニプリのレコードの数値を集計します	集計 （サーバー側でデータを集計します。データを直接編集することはできません。）
	最新テキスト	別のデータポケットのレコードから最新のテキストを取り出します	
	最新日時	別のデータポケットのレコードから最新の日時を取り出します	
	最新日付	別のデータポケットのレコードから最新の日付を取り出します	
	最新位置	別のデータポケットのレコードから最新の位置を取り出します	
	ID生成	レコードが作成された時に、ユニークなIDを生成します	自動化 （サーバー側で生成します。データを直接編集することはできません。）
	QRコード生成	レコードが作成・更新された時に、指定されたフィールドの値からQRコードを生成します	
	メール送信	レコードが作成・更新されたとき人、指定されたメールアドレスにメールを送ります	
	メール送信（ユーザー）	レコードが作成・更新された時に、指定されたユーザーにメールを送ります	
	プッシュ通知	レコードが作成・更新された時に、選択されたユーザーにプッシュ通知を送ります	
	体温	体温計から体温を読み込みます	センサー （BLE機器） （※1：各BLE機器の計測データを読み取るために、BLE機器別のフィールドが存在します。フィールドの対応する機器は不明の場合、アプリの管理者に確認してください。）
	体重	体重計から体重を読み込みます	
	血圧	血圧計から血圧を読み込みます	Premium
	パルスオキシメーター	パルスオキシメーター（PLS-01BT）から血中酸素濃度を読み込みます	
	気温/ 温度(TR4)	気温：SensorTagから気温を読み込みます。 温度(TR4)：TR4シリーズから温度を読み込みます	
	温度	SensorTagから温度を読み込みます	
	湿度	SensorTagから湿度を読み込みます	
	明るさ	SensorTagから明るさを読み込みます	
	気圧	SensorTagもしくはBlueNinjaから気圧を読み込みます(※1)	
	加速度	SensorTagもしくはBlueNinjaから加速度計のデータを読み込みます(※1)	
	ジャイロ	SensorTagもしくはBlueNinjaからジャイロスコープのデータを読み込みます(※1)	
	磁気	SensorTagもしくはBlueNinjaから磁気計のデータを読み込みます(※1)	

フィールドアイコン一覧（続く）

アイコン			タイプ
	温湿度/ 環境センサー	温湿度：Logtta(UNI-01)から気温と湿度を読み込みます。 環境センサー：オムロンの環境センサーから様々なデータを読み込みます。(※1)	Premium センサー （BLE機器） （※1：各BLE機器の計測データを読み取るために、BLE機器別のフィールドが存在します。フィールドの対応する機器は不明の場合、アプリの管理者に確認してください。
	CO2濃度	Logtta(UNI-02)からCO2濃度を読み込みます	
	水温	Logtta(UNI-03)から水温を読み込みます	
	温湿度ログ/ 環境センサーログ	温湿度ログ：Logtta(UNI-01)から気温を湿度のログを読み込みます。 環境センサーログ：オムロンの環境センサーから様々なデータのログを読み込みます。 (※1)	
	CO2濃度ログ	Logtta(UNI-02)からCO2濃度のログを読み込みます	
	水温ログ	Logtta(UNI-03)から水温のログを読み込みます	

5-3. フィールドにデータを入力する方法

5-3-1. テキストタイプ

【フィールド型】テキスト、複数行テキスト、電話番号、メールアドレス、URL、パスワード

フィールドをタップして、文字を入力します。

5-3-2. 数値タイプ

【フィールド型】数値、通貨

フィールドをタップして、値を入力します。

5-3-3. 日時タイプ

【フィールド型】日時

フィールドをタップして、日にちと時間を選択します。

5-3-4. 日付タイプ

【フィールド型】日付

フィールドをタップして、日付を選択します。

5-3-5. 時間タイプ

【フィールド型】時間

フィールドをタップして、時間を選択します。

5-3-6. 選択タイプ

【フィールド型】スイッチ

スイッチをタップして、オン・オフします。

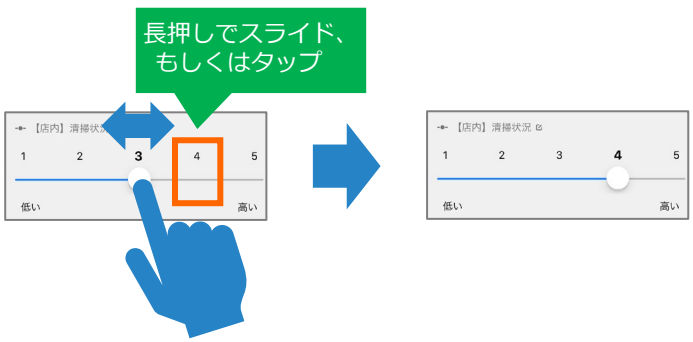
【フィールド型】テキスト選択、複数テキスト選択、数値選択、複数数値選択、色選択

▼矢印をタップして、選択肢をタップします。

※ 複数選択の場合、選択値をタップした後「閉じる」をタップしてください

【フィールド型】スライダー

スライダーを長押ししながらスライド、もしくは数値をタップして、スライダーの位置を設定します。



【フィールド型】ユーザー、複数ユーザー

▼矢印をタップして、ユーザーアカウントをタップします。

※ 複数選択の場合、選択値をタップした後「閉じる」をタップしてください

5-3-7. 地図タイプ

【フィールド型】地図

地図フィールドに配置したいところを長押しするか、場所名を検索すると、任意の場所をピンします。

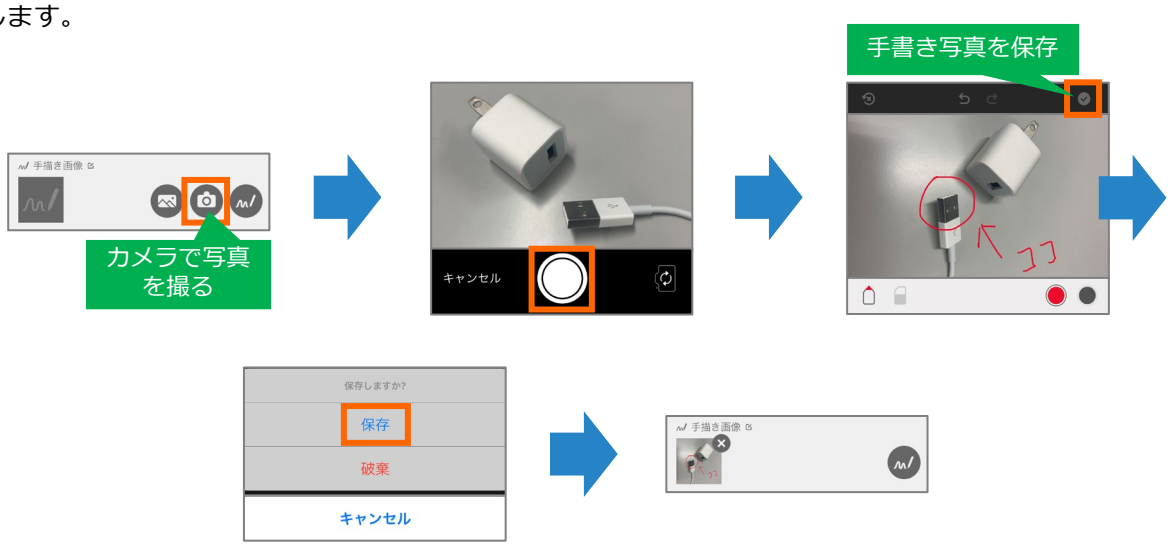
5-3-8. メディアタイプ

【フィールド型】画像（小）、画像（大）

写真やカメラのアイコンをタップして、画像を添付します。

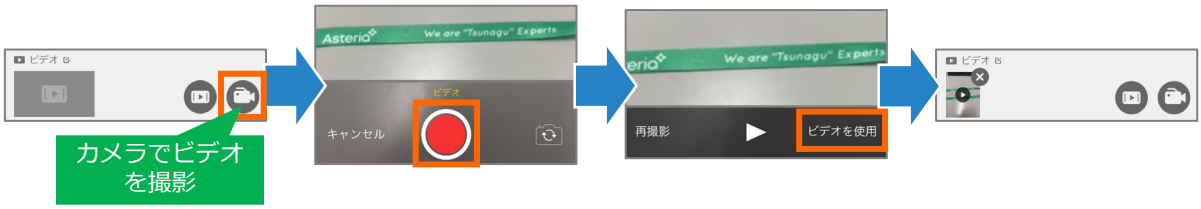
【フィールド型】手書き画像

写真、カメラや手書きのアイコンをタップして、画像もしくは白色のキャンバスに手書きメモを追加します。



【フィールド型】ビデオ

動画やビデオ撮影のアイコンをタップして、動画を添付します。



【フィールド型】音声

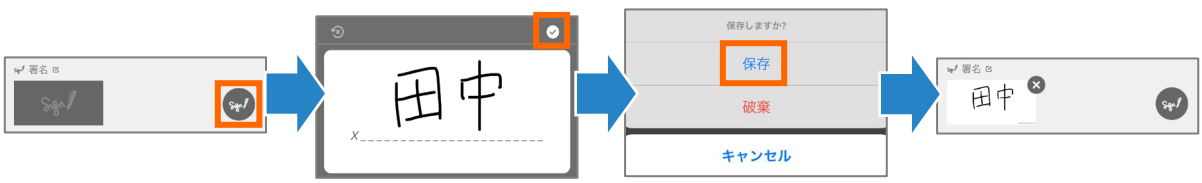
録音アイコンをタップして、音声を録音します。

【フィールド型】ファイル

ファイルのアイコンをタップして、資料を添付します。
添付できる資料の形式：.pdf, .doc, .docx, .xls, .xlsx, .ppt, .pptx, .pages, .numbers, .key

【フィールド型】署名

署名アイコンをタップして、手書きサインを添付します。



5-3-9. リーダータイプ

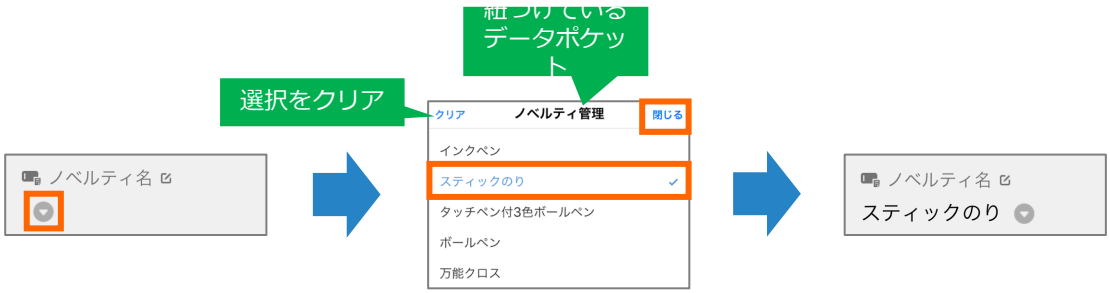
【フィールド型】バーコード、QRコード、NFC、テキスト読み取り、数値読み取り

各リーダーのアイコンをタップして、値を読み取ります。

5-3-10. レコード選択タイプ

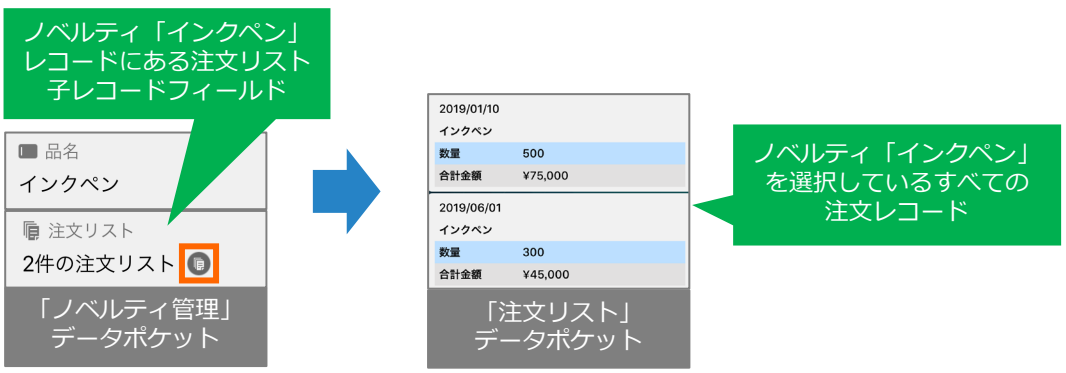
【フィールド型】レコード選択

▼矢印をタップして、別データポケットのレコードを選択します。



【フィールド型】子レコード

子レコードアイコンをタップして、閲覧中のレコードを選択している別データポケットのレコードを一覧で閲覧、編集します。



5-3-11. 計算/集計/自動化タイプ

【フィールド型】テキスト生成、URL生成、数値計算、通貨計算、集計、最新テキスト、最新日時、最新位置、 ID生成、QRコード生成、メール送信、プッシュ通知

計算タイプのフィールドは設定している他のフィールドデータから計算するため、計算されたデータを直接編集することはできません。

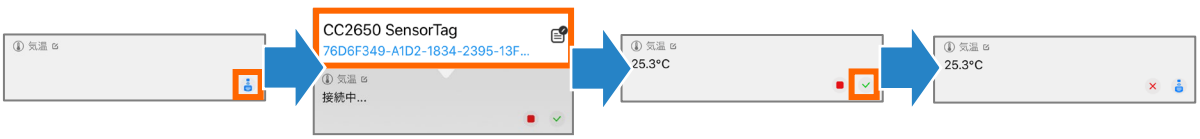
例）

5-3-12. センサータイプ（BLE機器） Premium

【フィールド型】体温、体重、血圧、パルスオキシメーター、気温/温度 (TR4)、温度、湿度、明るさ、気圧、加速度、ジャイロ、磁気、温湿度/気温センサ、CO2濃度、水温、温湿度ログ/環境センサログ、CO2濃度ログ、水温ログ

端末とBLE機器をBluetoothペアリングして、接続アイコンをタップします。
ポップアップリストに接続可能なBLE機器が表示されます。機器名をタップすると、機器で測定したデータがフィールドに表示されます。チェックマークをタップして、値をフィールドに登録します。

※ ペアリングの操作なく使えるものとペアリングが事前に必要なものがあります。ペアリング方法は各BLE機器でご確認ください。



5-4. レコードを保存する

新規シーンと編集シーンの右下にある保存アイコン（✓マーク）をタップすると、入力したデータはPlatioサーバーに保存されます。

※ 設定によって、保存後の操作は異なります。新規シーン、編集シーン保存後の動作については本ガイドの「**3-1-1. 新規シーン**」と「**3-1-7. 編集シーン**」に参照してください。

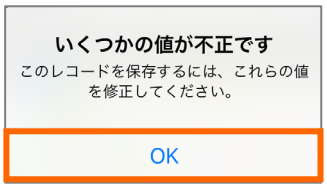
レコードを保存する時に以下のエラーが発生する可能性があります。

5-4-1. 保存する時の必須エラー

フィールドを必須の設定にしている場合、データが入力されていない状態で保存アイコンをタップすると、エラーメッセージが表示されます。

※ レコードを保存することは出来ません。

以下のステップで必須エラーを解決します。



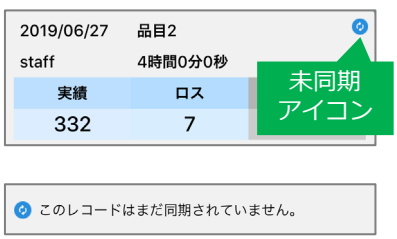
「OK」をタップします。必須に設定しているフィールドにデータを入力し、レコードを保存します。

5-4-2. 保存する時の同期エラー

ネット接続が悪いもしくはオフラインの状態でレコードを作成して保存すると、一覧シーンのレコードに未同期のアイコンが表示されます。

※ アプリ上でレコードを保存しますが、データはPlatioサーバーに反映、保存されません。

以下のステップで同期エラーを解決します。



端末をネットに接続します。端末がオンラインの状態になると、レコードのデータが自動的にPlatioサーバーと同期して、未同期アイコンが自動的に消えます。

※ 未同期アイコンが消えない場合、本ガイドの「**7-5-3. データを手動で同期する**」を参照してください。

5-4-3. 保存する時の重複エラー

フィールドを値の重複を許さない設定にしている場合、既存のレコードと同じデータを入力して保存しようとすると、一覧シーンのレコードに注意アイコンが表示されます。

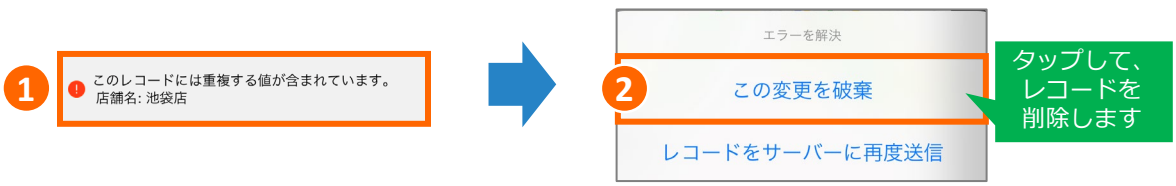
※ アプリ上でレコードを保存しますが、データはPlatioサーバーに反映、保存しません。

以下のステップで重複エラーを解決します。

注意アイコンが表示されているレコードをタップして、表示シーンに切り替えます。

レコードを削除

1. 表示シーンの上部にエラーメッセージをタップして、エラー解決のポップアップダイアログを表示します。
2. 「この変更を破棄」をタップして、レコードを削除します。



レコードを編集して保存

1. 表示シーンの右下にある編集アイコンをタップして、編集シーンに切り替えます。
2. 重複しているデータを重複しないような値に編集して、レコードを保存します。

5-4-4. レコードの衝突エラー

レコードの衝突はPlatioサーバーのデータとPlatioアプリのデータが異なる時に表示するエラーです。

衝突のエラーが発生する例：

1. アプリで入力したデータがPlatioサーバーと同期して保存した後に、Platioアプリを使用する端末がオフラインの状態に入ります。
2. （Platioアプリを使用する端末がオフラインの状態）データビューアーでデータを編集して、保存します。
3. その後、 端末がオフライン（データビューアーで編集したデータは更新していない状態）でレコードのデータを編集します。
4. 使用する端末がオンラインの状態に入ると、データビューアー上のデータがPlatioアプリ上のデータが異なるため、衝突アイコンが表示されます。

以下のステップで衝突エラーを解決します。

1. 衝突アイコンが表示しているレコードをタップして、表示シーンに切り替えます。
表示シーンの上部にエラーメッセージが表示されます。

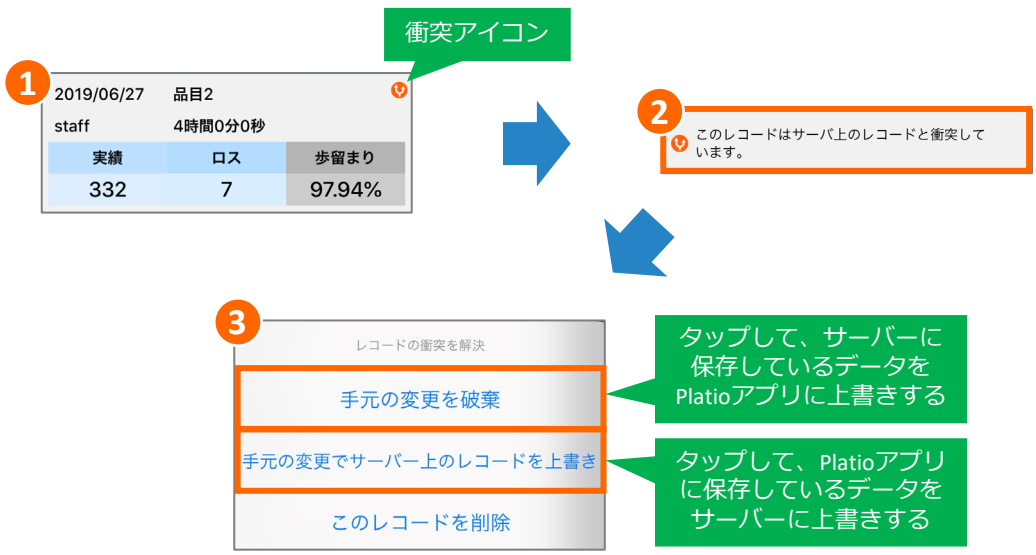
2. エラーメッセージをタップして、エラー解決のポップアップダイアログを表示します。

3. **【サーバーに保存しているデータをPlatioアプリに上書きする】**

「手元の変更を破棄」をタップして、サーバーに保存しているデータをPlatioアプリのデータに上書きします。Platioアプリに入力したデータは消えます。

【Platioアプリに保存しているデータをサーバーに上書きする】

「手元の変更でサーバー上のレコードを上書き」をタップして、 Platioアプリのデータをサーバー上のデータに上書きします。データビューアーに入っているデータは消えます。



用語Tips

データビューアー：Platioアプリで収集したデータを閲覧・管理・ダウンロードできるウェブブラウザ上のデータ管理クラウドサービスです。

5-5. レコードを編集する

以下の操作でレコードのデータを編集することができます。

1. **【表示シーンから編集シーンに切り替え】**：表示シーンの右下にある編集アイコンとタップします。

   【一覧シーンから編集シーンに切り替え】：一覧シーンで編集したいレコードを左へスワイプします。編集アイコン及び削除アイコンが表示されます。編集アイコンをタップして、編集シーンに切り替えます。

   ※ できる操作（編集・削除操作）はシーンの設定及びデータポケットの権限によります。

2. 編集シーンでレコードのデータを編集します。画面の右下にある保存アイコンをタップして編集したデータを保存します。

3. 保存後、画面は編集前の画面（一覧シーン・表示シーン）、もしくは表示シーンに切り替わります。

※ 編集シーン保存後のシーンについては本ガイドの「**3-1-7. 編集シーン**」に参照してください。

5-6. レコード作成/編集の取り消し

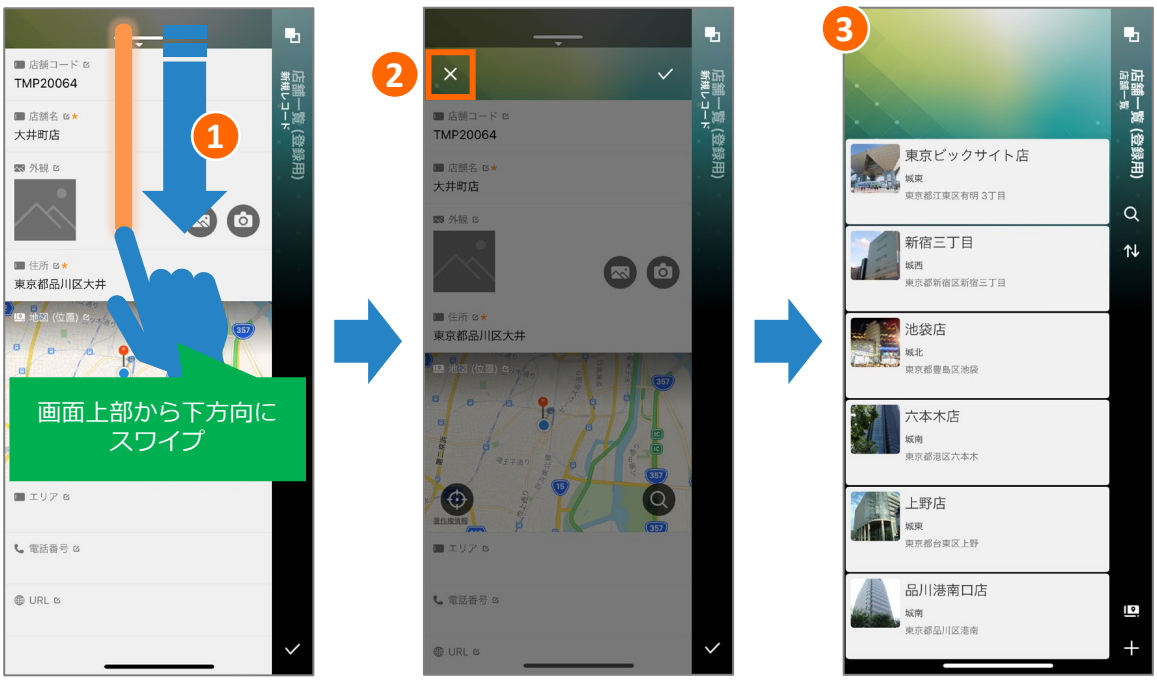
レコードを作成/編集する途中でデータの入力と編集を取り消すことが出来ます。

1. データ入力する画面（新規シーンもしくは編集シーン）で画面上部から下方向にスワイプします。

2. 画面の上部に取り消しアイコン（✗）と保存アイコン（✓）が表示されます。
取り消しアイコン（✗）をタップして、データの入力・編集操作を取り消します。

3. 一覧シーンに戻ります。入力、編集したデータは反映されません。

※ 新規シーンが初期シーンの場合、取り消しの操作はできません。



6 データを閲覧する

6-1. データを一覧で表示できるシーン

データを一覧で表示する操作手順は3つあります：

- 一覧シーンでレコードをリストの形で表示する
- 地図シーンでレコードの位置データを地図上で表示する
- グラフシーンでレコードの数値データをグラフにプロットして表示する

上記の各シーンでレコードのデータを一覧で表示することができます。
レコードが存在しない場合、一覧シーンとグラフシーンが空の状態で表示されて、地図シーンにはレコードの位置が表示されません。

6-2. レコードの詳細を閲覧する

以下は一覧シーン、地図シーン、グラフシーンからレコードの詳細を表示する操作です。

6-2-1. 一覧シーンからレコードの詳細を確認する

1. 閲覧したいレコードをタップして、表示シーンに切り替えます。

2. レコードの詳細（データ）が表示されます。
※ フィールドの設定によって、フィールドが非表示になっている場合もあります。

3. 画面上部から下方向にスワイプすると、画面が一覧シーンに戻ります。

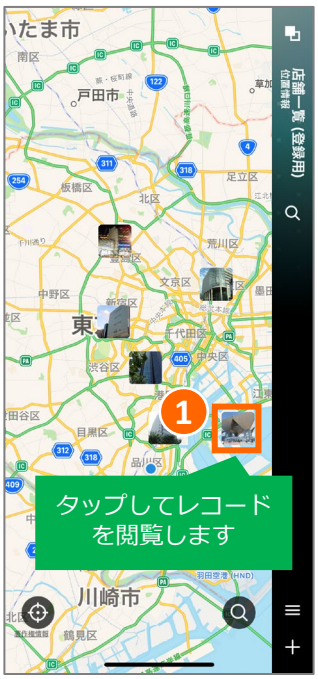
一覧シーン　　表示シーン

6-2-2. 地図シーンからレコードの詳細を確認する

1. 閲覧したいレコードの図やピンをタップして、表示シーンに切り替えます。

2. レコードの詳細（データ）が表示されます。
※ フィールドの設定によって、フィールドが非表示になっている場合もあります。

3. 画面上部から下方向にスワイプすると、画面が地図シーンに戻ります。



地図シーン

表示シーン

6-2-3. グラフシーンからレコードの詳細を確認する

1. 画面右下にある一覧シーン切替アイコンをタップして、グラフシーンから一覧シーンに切り替えます。

2. 閲覧したいレコードをタップします。

3. レコードの詳細（データ）が表示されます。
※ フィールドの設定によって、フィールドが非表示になっている場合もあります。

4. 画面上部から下方向にスワイプすると、画面が一覧シーンに戻ります。

6-3. レコード一覧でキーワードを検索する

フィールドを検索可能の設定にしている場合、フィールドに登録しているデータを検索することができます。

※ フィールドが検索可能に設定されている必要があります。設定していない場合、フィールドに入っているデータは検索できません。フィールドの検索設定についてアプリの管理者に問い合わせしてください。

6-3-1. 一覧、地図、グラフシーンでの検索

データポケットに1個以上のフィールドが検索可能に設定している場合、一覧シーン、地図シーン、グラフシーンに検索アイコンが表示されます。

1. 検索アイコンをタップして、検索バーを表示させます。

2. 検索キーワードを入力して、「検索」をタップします。

6-3-2. アプリの検索条件

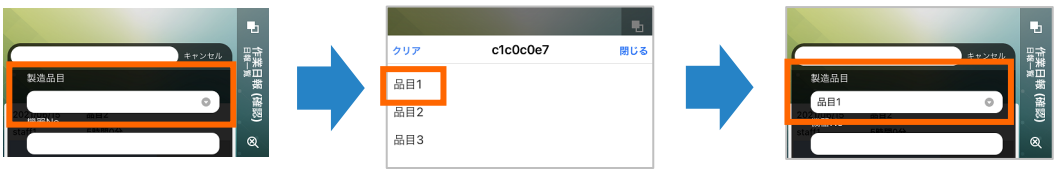
アプリの管理者がデータポケットに検索条件を定義せずにフィールドを検索可能にしている場合、アプリで指定した検索条件で検索することができます。複数のフィールドで検索可能な場合、各フィールドに入力するとAND検索になります。特定のフィールドで検索したい場合は、対象のフィールドのみ入力し、他のフィールドは空で検索するようにします。

検索アイコンをタップすると、検索可能なすべてのフィールドの検索条件が表示されます。

検索条件はフィールドの型ごとに以下のようになります。

【フィールド型】選択系フィールド（テキスト・数値）

▼矢印をタップして、選択肢をタップします。演算子は「等しい」です。



※ 選択値をタップした後「閉じる」をタップしてください

【フィールド型】ユーザー系フィールド

▼矢印をタップして、ユーザーアカウントをタップします。演算子は「等しい」です。

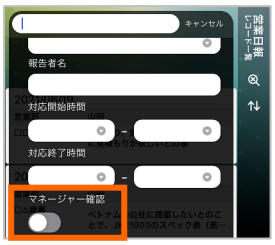
※ 選択値をタップした後「閉じる」をタップしてください

【フィールド型】数値系フィールド

数値を入力します。指定された範囲を検索します。

【フィールド型】スイッチ系フィールド

スイッチを選択します。演算子は「等しい」です。



【フィールド型】日時系フィールド

▼矢印をタップして、日時を指定します。指定された範囲を検索します。

【フィールド型】日付系フィールド

▼矢印をタップして、日付を指定します。指定された範囲を検索します。

【フィールド型】時間系フィールド

▼矢印をタップして、時間を指定します。指定された範囲を検索します。

【フィールド型】その他テキスト系フィールド

テキストを入力します。演算子は「含む」です。

6-3-3. 検索書式

Platioアプリでは検索バーにキーワードをそのまま入力して検索する他に、比較演算子を使って「より小さい」「より大きい」の検索もできます。

※ 検索書式の詳細はPlatio開発者ドキュメントの「**レコード検索書式**」を参照してください。

比較演算子を使用する検索書式

検索するフィールドのタイトルコロン(:)もしくは比較演算子検索するキーワード

【例】テキストフィールドで報告者の名前を検索する

報告者:山田

【結果】「報告者」フィールドに「山田」のテキストが**含まれる**レコードが表示されます。

使える比較演算子

比較演算子	
=	カラムの値が指定した値に等しい 【例】**名=太郎** 【結果】「名」フィールドに「太郎」のテキストが**一致**しているレコードが表示されます。
!=	カラムの値が指定した値に等しくない 【例】**場所名!=東京** 【結果】「場所名」フィールドに「東京」のテキスト**以外**のレコードが表示されます。
<	カラムの値が指定した値より小さい 【例】**温度<10** 【結果】「温度」フィールドの数値が「10」**より小さい**数字が一致しているレコードが表示されます。
<=	カラムの値が指定した値以下 【例】**湿度<=50** 【結果】「湿度」フィールドの数値が「50」**以下**の数字が一致しているレコードが表示されます。
>	カラムの値が指定した値より大きい 【例】**体温>36.7** 【結果】「体温」フィールドの数値が「36.7」**より大きい**数字が一致しているレコードが表示されます。
>=	カラムの値が指定した値以上 【例】**単価>=200** 【結果】「単価」フィールドの数値が「200」**以上**の数字が一致しているレコードが表示されます。

検索時のフィールド型

検索書式は、比較演算子の他に、フィールド型も重要です。
Platioアプリでは検索バーに入力した検索キーワードを先に対象フィールドの型に変換した後に、検索キーワードと登録されたデータを比較します（検索）。そのため、入力したキーワードはフィールド型と合わないと、検索結果には何も表示しません。

例）検索バーに「5」の数値を入力して検索します。数値フィールドが検索対象の場合、数値フィールドに「5」の値が含まれているレコードが表示されます。日付フィールドが検索対象の場合、検索キーワードが日付型になっていないため、日付フィールドに「5日、15日、25日」のデータが存在しても検索結果としては表示されません。

フィールドの型	検索キーワードとの比較フォーマット
テキスト	キーワードをそのまま比較します。 【例】**氏名:山田**
数値	キーワードを数値に変換して比較します。 【例】**在庫数:200**
日時	キーワードを **YYYY-MM-DD'T'HH:mm:ss.sss'Z'** 形式に変換して比較します。 また、”**today**” ”**tomorrow**” ”**yesterday**” のような検索キーワードも利用できます。 “**+00:30**” “**-00:60**” のようなキーワードを使用して30分後、60分前の検索もできます。 【例1】**日時>=2020-06-20T05:20:28.108Z**【例2】**日時>today**【例3】**日時>-2:00** 【結果1】**2020年6月20日のUTC 5時20分28.108秒**（日本の14時20分）**以降**の日時データが登録されているレコードが表示されます。 【結果2】**検索日（今日）の0:00時より以降**の日時データが登録されているレコードが表示されます。 【結果3】**検索時間帯（現在時間）の2時間前より以降**の日時データが登録されているレコードが表示されます。
日付	キーワードを **YYYY-MM-DD** 形式に変換して比較します。 また、”**today**” ”**tomorrow**” ”**yesterday**” のような検索キーワードも利用できます。 “**+5**” “**-7**” のようなキーワードを使用して5日後、7日前の検索もできます。 【例1】**日付:2020-11-06**【例2】**日付:yesterday**【例3】**日付>-7** 【結果1】**2020年11月6日**の日付データが登録されているレコードが表示されます。 【結果2】**検索日の1日前（昨日）**の日付データが登録されているレコードが表示されます。 【結果3】**7日前より以降**の日付データが登録されているレコードが表示されます。
時間	キーワードを **HH:mm:ss** 形式に変換して比較します。 【例】**登録時間>=12:10** 【結果】**12時10分以降**の時間データが登録されているレコードが表示されます。
選択	キーワードを指定した値を各要素と比較します。
地図	検索アイコンで地図フィールドに登録している位置情報は検索できません。 地図シーンを利用してください。
添付ファイル	キーワードが添付ファイルの名前を大文字小文字区別しないで比較します。
リーダー	キーワードがフィールドに登録しているデータをそのまま比較します。
レコード選択	キーワードが参照先の値（選択したレコードの値）と比較します。

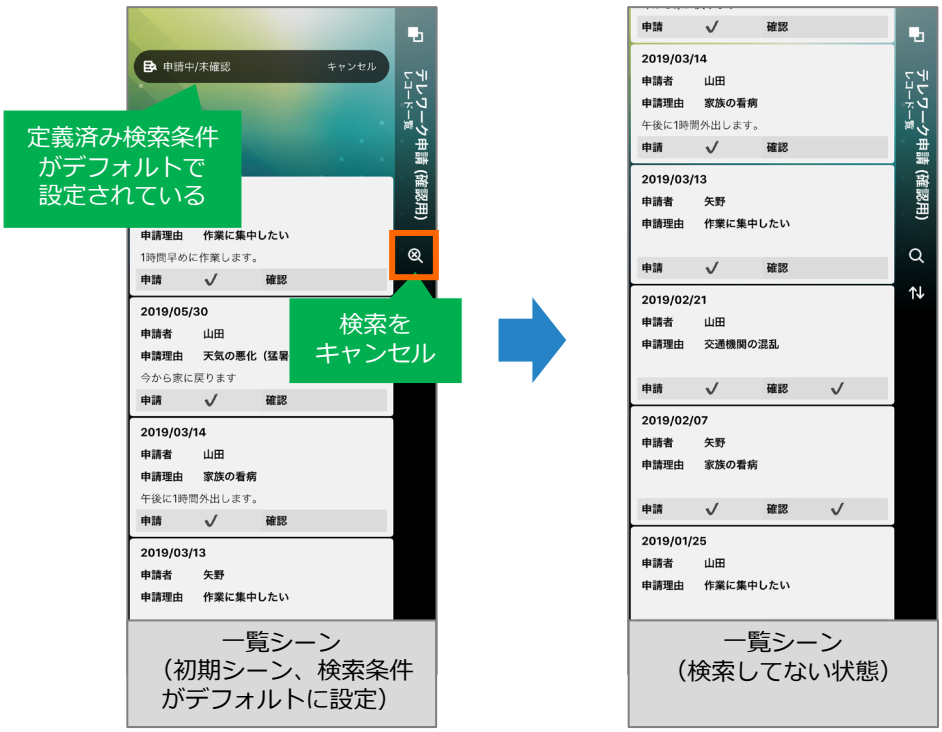
※ 時間に関する検索は「**より小さい <**」「**以下 <=**」「**より大きい >**」「**以降 >=**」の比較演算子を利用することをお勧めします。

6-3-4. 定義済み検索条件

場合によって、 アプリの管理者がデータポケットに検索条件の定義を設定しています。
定義済み検索条件はアプリユーザーがキーワード、条件をよく検索する時の便利機能です。

検索定義が設定している場合、検索バーの下に検索定義済みの条件が表示されます。定義済みの検索条件をタップすることでレコードの一覧から検索条件に合うレコードが表示されます。

検索条件がデフォルトで選択している時もあります。その場合、検索条件に合うレコードがデフォルトで一覧表示します。



6-4. バーコードシーンでレコードを検索する

バーコードシーンはスマートフォン/iPadのカメラを利用して、バーコードやQRコードで読み取ったデータを対象フィールドのデータと比較するためのインタラクティブ検索画面です。

※ データポケットによって、検索の対象フィールドが異なります。検索の対象フィールドについてはアプリの管理者に問い合わせしてください。
※ Platioアプリのカメラアクセス許可が必要です。Platioアプリのカメラ許可設定方法は本ガイドの「**3-1-1. 新規シーン**」にあるTipsを参照してください。
※ Platioで対応するバーコード形式については「**バーコードはどのような形式に対応していますか？**」のFAQを参照してください。

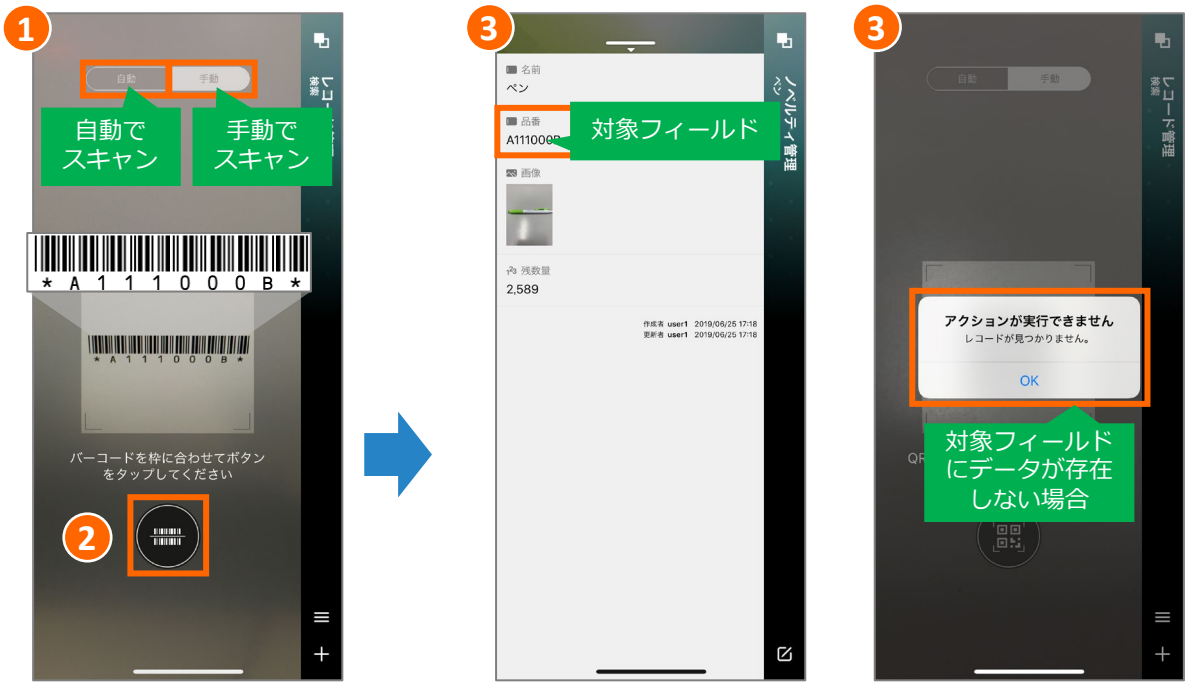
1. バーコードシーンでバーコード、もしくはQRコードを読み取ります。
設定によって、自動・手動でスキャンするオプションが表示されます。
（説明図では手動スキャンの画面が表示しています）

2. 自動スキャンの場合：バーコード、QRコードで読み取ったデータで自動で検索します。
手動スキャンの場合：バーコード、QRコードを画面の真ん中にある四角いボックスに合わせると、読取りボタンが有効化されます。有効化されたボタンをタップして、バーコード、QRコードのデータを読み取ります。

3. Platioアプリがすべてのレコードの対象フィールドに登録しているデータを検索します。

【検索が成功した時】：対象フィールドに登録しているデータがバーコード、QRコードから読み取ったデータと一致する場合、レコードが表示されます。

【検索が失敗した時】：対象フィールドにバーコード、QRコードから読み取ったデータが存在しない場合、「アクションが実行できません。レコードが見つかりません。」とのポップアップメッセージが表示されます。



バーコードシーン

表示シーン
（検索が成功した時）

バーコードシーン
（検索が失敗した時）

6-5. レコード一覧でレコードを並び替える（ソート）

フィールドがソート可能に設定している場合、一覧シーンで対象フィールドに登録しているデータを昇順、降順で並び替えることができます。

1. はじめて一覧シーンを表示する時、登録しているレコードの順番はアプリの管理者が設定したデフォルトのソート設定で並びます。
   ソートアイコンをタップします。
2. ソートできるフィールドが表示されます。
3. ソートしたいフィールドの順をタップして、レコードを並び替えます。

一覧シーン
（歩留まり（集計）**昇順**で並びます）

一覧シーン
（歩留まり（集計）**降順**で並びます）

6-6. レコードの印刷

シーンの印刷設定が有効な場合、表示シーンに印刷のアイコンが表示されます。
対応しているBluetoothモバイルプリンターに接続して、以下のステップでレコードの詳細を印刷することができます。

※ モバイルプリンターについてはPlatio製品サイトの「対応機器：Bluetooth接続可能なモバイルプリンター」を参照してください。

1. モバイルプリンターに接続して、印刷したいレコードをタップして閲覧します。

2. 印刷アイコンをタップして、印刷内容の確認画面に進みます。

3. 内容を確認して、「印刷」をタップすると、表示された情報はモバイルプリンターの用紙に印刷されます。

7 その他の操作

7-1. データポケットの切替

1つのミニアプリに複数のデータポケットがある場合、データポケットを切り替えるには以下の操作を行います。

1. 切替アイコンをタップしてデータポケット一覧画面を表示します。
2. 表示されたデータポケット一覧で、切り替えたいデータポケットをタップします。
3. 切り替えたデータポケットの初期シーンが表示されます。

7-2. レコードの削除

以下はPlatioアプリでのレコード削除操作です。

※ シーンの設定及びデータポケットの権限によって、削除の操作はできない場合があります。

7-2-1. 一覧シーンでレコードを削除する

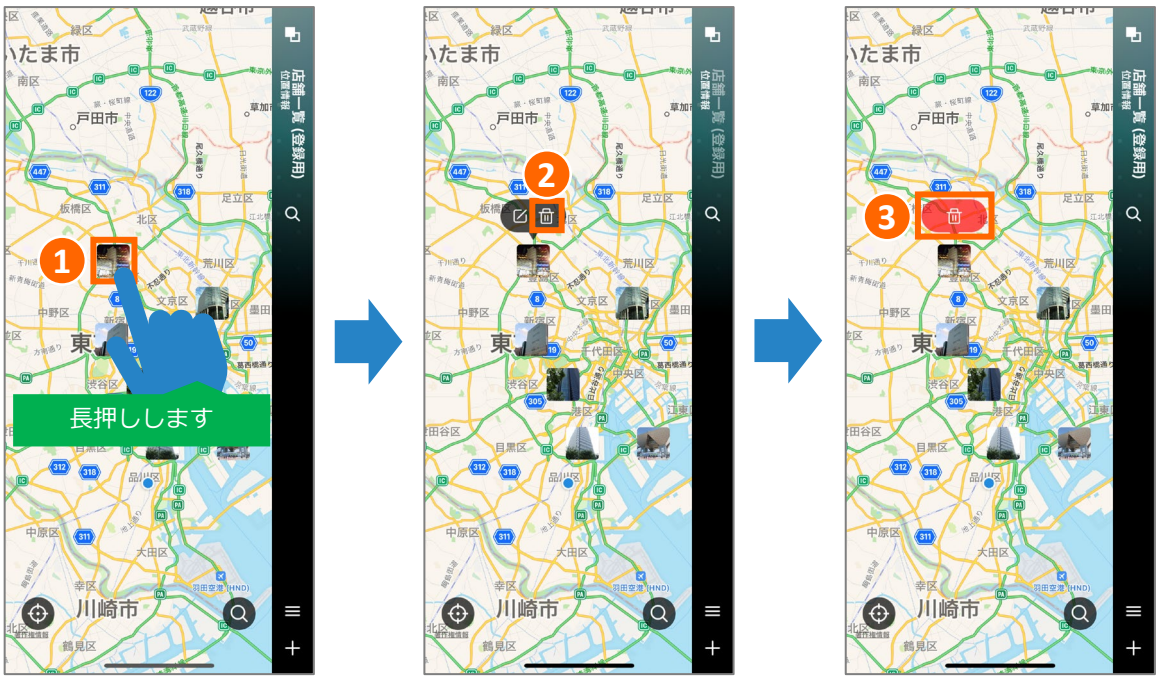
1. 削除したいレコードを左へスワイプします。
2. 編集、削除のオプションが表示されます。削除アイコンをタップします。
3. 削除アイコンの背景色は赤に変更します。削除アイコンをもう一度タップして、レコードを削除します。

7-2-2. 地図シーンでレコードを削除する

1. 削除したいレコードの図やピンを長押しします。

2. 編集、削除のオプションが表示されます。削除アイコンをタップします。

3. 削除アイコンの背景色は赤に変更します。削除アイコンをもう一度タップして、レコードを削除します。



7-3. ミニアプリの更新

以下はPlatioアプリでのミニアプリ更新操作です。

※ ログイン中でミニアプリが更新された時のみです。ログアウト中でミニアプリが更新された場合、次にログインすると、最新版（更新済み）のミニアプリが表示されます。
※ 新しいバージョンが配布されたかどうかは1時間に1回チェックされます。更新マークが表示されていない場合でも、新しいバージョンが配布されていれば4.のメッセージが表示されます。

1. ログイン中でミニアプリが更新された場合、切替アイコンに更新マークが表示されます。
更新マーク付きの切替アイコンをタップします。

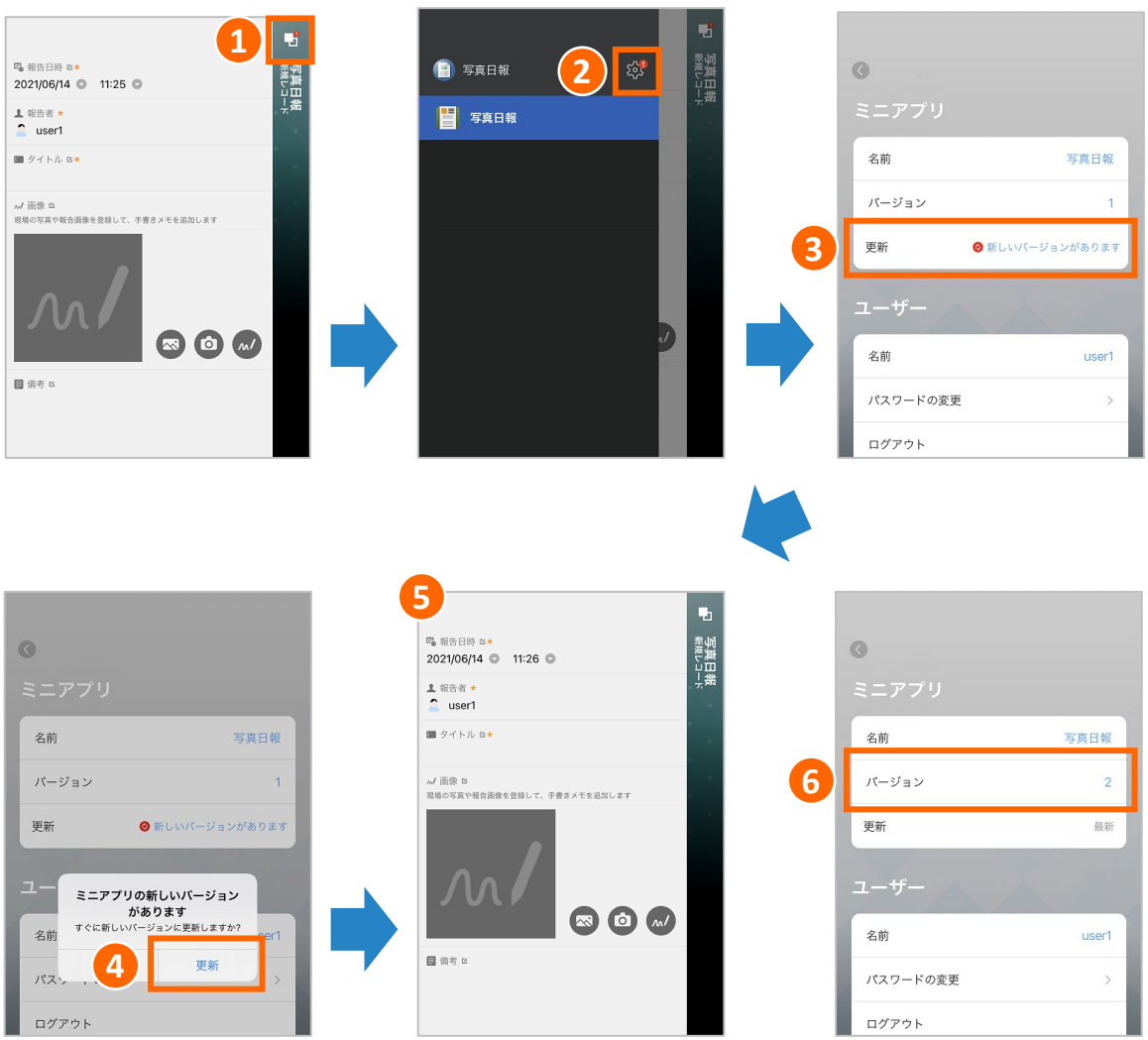
2. データポケット一覧画面に切り替わります。設定アイコンをタップします。

3. ミニアプリメニューが表示されます。
更新マーク付きのミニアプリ更新アイコンをタップして、ミニアプリを更新します。

4. 確認メッセージが表示されます。更新する場合は「更新」をタップします。

5. 更新が完了すると、データポケット画面に戻ります。

6. 設定で、バージョンを確認できます。



7-4. ミニアプリの設定画面

Platioアプリの設定画面では以下の情報を確認できます。

- ミニアプリの名前
- ミニアプリのバージョン
- ログイン中のユーザーアカウント名
- Platioアプリのバージョン

その他、パスワードの変更及びデータの手動同期もできます。

7-4-1. 設定画面に切り替える

1. 切替アイコンをタップして、データポケット一覧画面に切り替えます。

2. 設定アイコンをタップします。

3. 設定画面に切り替わります。

7-4-2. パスワードを変更する

1. 設定画面で「パスワードの変更」をタップします。

2. パスワード変更の画面が表示されます。
現在のパスワード、新しいパスワード、新しいパスワード（確認用）に情報を入力して、
「変更」をタップすると、ログイン中のユーザーアカウントパスワードが変更されます。

7-4-3. データを手動で同期する

データを手動で同期する機能は以下2つの利用シーンで利用することが考えられます：

- Platioアプリをオフラインで利用したい時に事前にレコードの情報をダウンロードする
- オフラインからオンラインの状態に戻る時に大量のレコードをPlatioサーバーにアップロードする

1. 設定画面で「同期する」をタップします。
2. ログイン中のミニアプリでアクセスできるデータポケットのレコードがすべて同期します。
3. 同期が完了すると、「閉じる」をタップして設定画面に戻ります。

7-4-4. 設定画面からデータポケット一覧に戻る

1. データポケット一覧画面に戻るには、戻るアイコンをタップします。

設定画面　　データポケット一覧

7-5. ミニアプリからログアウト

以下はログイン中のミニアプリからログアウトする操作です。

1. 以下いずれかの方法でログアウトをタップします：
   - ❷❹設定からログアウトをタップ
   - ❸❺ユーザーアイコンからログアウトをタップ

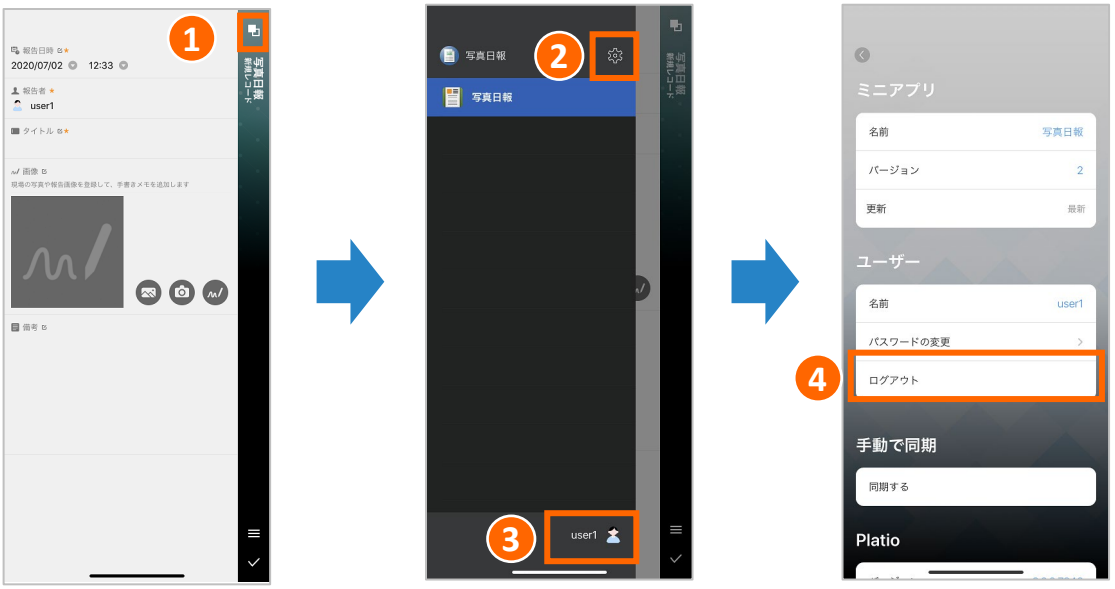
2. データポケット一覧にある設定アイコンをタップします。

3. または、データポケット一覧にあるユーザーアイコンをタップします。

4. 設定画面でログアウトをタップして、ミニアプリからログアウトします。

5. ユーザーアイコンをタップしてポップアップ表示されたログアウトをタップします。

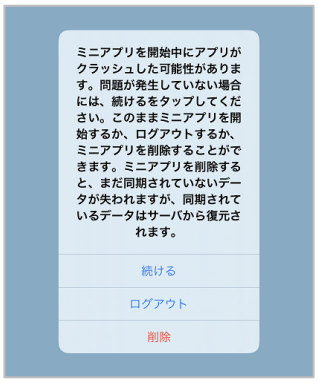
6. ミニアプリのログイン画面が表示されます。右上にある起動画面アイコンをタップして Platioの起動画面に戻ります。
   本ガイドの「**2. ログイン**」操作を繰り返して、別のミニアプリを活用することができます。



7-6. Plaitoアプリの終了

Platioアプリは、端末のホーム画面へ戻る操作か、またはアプリの画面切り替え操作でPlatioアプリ閉じて終了します。

起動中のアプリ（マルチタスクのアプリ）をスワイプして強制終了すると、Platioアプリがクラッシュしたと認識して、次回のPlatioアプリ起動時に下図の「ミニアプリを開始中にアプリがクラッシュした可能性があります。」というメッセージが表示されることがあります。
メッセージが表示された場合、通常は「続ける」をタップしてPlatioアプリを開始します。



7-7. プッシュ通知

Platioアプリでプッシュ通知を受けるには、端末でプッシュ通知を受け取る設定にし、Platioアプリへログインした状態にしておく必要があります。複数のミニアプリにログインして、それぞれのミニアプリからのプッシュ通知を受け取ることができます。
※ ミニアプリからログアウトした状態ではプッシュ通知を受け取りませんので注意してください。

端末でプッシュ通知を受け取る設定は以下を確認します。

iOS / iPadOS

1. 設定をタップします。
2. 通知をタップします。
3. アプリの一覧から「Platio」をタップします。
4. 通知の設定を確認します。

Android OS

Android端末では機種によってメニュー構成が異なることがあるため、それぞれの機種のマニュアル等にてご確認ください。
※ 設定メニューの中の「アプリと通知」や「アプリ情報」等からPlatioアプリの設定の中の通知設定をご確認ください。

7-8. トラブルシューティング

Platioアプリを操作中に動作しなくなる、またはクラッシュして強制終了してしまう等の問題が発生したときには、アプリの管理者へ確認します。
アプリの管理者に確認の上、以下を行うと解消できる場合があります：

- PlatioアプリをOSのマルチタスクから完全に終了して、再度アプリを起動する
- Platioアプリを最新バージョンへアップデートしてアプリを起動する
- Platioアプリをアンインストールして、アプリをアプリをインストールして起動する

※ アプリを起動する前に端末自体を再起動してください。

解消しないとき、iOS / iPadOSの場合はPlatioアプリからログを取得し、アプリの管理者はサポートへお問い合わせください。

また、端末からアプリのレポートを送信するようにしておくと、Appデベロッパと共有されます。

7-8-1. ログを取得する(iOS / iPadOS)

1. 設定画面で、画面下部の「ログ」をタップします。

2. 共有からログを取得します。

7-8-2. 端末からアプリのレポートを送信する

端末からアプリのレポートを送信する設定は以下をオンにします。

iOS / iPadOS

1. 設定をタップします。
2. プライバシーをタップします。
3. 画面下部の「解析および改善」をタップします。
4. 「Appデベロッパと共有」をオンにします。

Android OS

Android端末では機種によってメニュー構成が異なることがあるため、それぞれの機種のマニュアル等にてご確認ください。
※ Android 9では、設定メニューの中の「Google」から画面上部の縦三点リーダをタップし、「使用状況と診断情報」を選択して表示された画面でオンを選択します。

免責事項

本資料の内容は、情報提供を唯一の目的とするものであり、マテリアルやコード、機能を提供することを確約するものではありません。アステリアの製品開発計画および今後の製品リリースの内容や時期は、さまざまな要因によって変化する可能性があります。本資料の内容は、あくまで参考情報とさせていただきますこと、ご了承ください。

アステリア株式会社